

高校1年生と2年生は、ふだんの勉強を大切に！！

大学受験の準備というと専門的な知識や演習が必要だと思っている人が多いかもしれませんが。しかし実際の大学入試では**ふだんの勉強 = 学校の授業・教科書の内容が土台**になります。難関大学に合格する生徒は、特別な知識を持っている人達ではありません。**基礎・標準的な問題で失点しない、分からない箇所(穴)が少ない**人です。出題の中心は高校の授業の中にあります。基礎・基本事項の理解度が合否を分けるといっても過言ではありません。まずは**授業の完全な理解をめざしましょう。きちんと予習をし、授業でその内容を理解し、復習・質問で確認する。この繰り返しで、大学入試のための基礎力がつく**のです。「すべてを学び取る」姿勢で「授業」を受けましょう！

【高校1年生の諸君は…】

学習習慣をつけよう！！

高1で一番大切なのは、学習習慣をつけること。入学したばかりの緊張していた時を思い出してください。1年の半分以上を過ぎてしまい、宿題や課題の提出が疎かになっていませんか？高校生活に少し慣れるとつい気が緩みがちになってしまいます。一方、学校で学習する内容はこの時期から少しずつ難しくなっていきます。授業の予習・復習を中心に、**平日は1日2時間程度(学年+1時間)を目安に勉強する習慣**をつくっていきましょう。

定期テスト対策は手を抜かず！！

定期テスト勉強は、その期間に学習したところをもう一度復習して、習ったことを確実に定着させるために有効です。仮にふだんの予復習が十分できなかったという場合でも、定期テスト前に余裕を持った学習計画を立て、勉強に取り組んでください。ここでしっかり定着させることができれば、高3からの受験勉強をスムーズに進めることができます。

【高校2年生の諸君は…】

志望校のことを考慮した学習を始めよう！！

高2では、自分の志望大学についてよく考え、ふだんの学習に反映させていくことが必要です。志望学部や志望大学を考えて絞れてきたら、さっそく入試に必要な科目を入試要項などで調べてみましょう。いくつか志望がある場合には、すべての候補の入試科目に注意してください。

自分の得意・苦手科目を見極めよう！！

調べてみた入試科目には、得意科目、苦手科目があることでしょう。得意・苦手によって高3からの学習の進め方も変わってきます。まずは自分の得意・苦手を確認するために、校内模試などの結果を参考にすることもよいでしょう。

◆得意科目は…今後さらに強化し、得点源にすることを考えましょう。得意な科目なら、夏あたりから少しずつ受験を意識した学習を取り入れてみましょう。

◆苦手科目は…高3になるまでに苦手科目の総復習を行いましょ。高3の夏までに何回か復習を繰り返し、基礎を固めて、全国平均点を上回るように努力しましょう。

大学進学に向けてプランを簡単にまとめると、①やりたいこと・学びたいこと(学問・資格)を見つける。②それがどの大学・学部・学科でできるのかについての情報を集める。③その大学全体の情報を調べる。④その大学に通うにはお金はどのくらいかかるのか(奨学金等も含めて)を調べる。⑤その大学の入試科目や選抜方法、入試の難易度を調べる。自分が学びたいことへの思いを**早い段階から**温めておくことは、それ自体が入試対策にもなりえます。こんなことを学んでみたい、という「願望」をこの大学で学びたいという「志望」に変えていくために、2学期も多くの**進路行事**があります。たくさんの情報を自分なりに読み解き、**1年生はなぜ学ぶのか、自分を知り、社会を知り、学問を知る時期**です。**2年生は学問と社会の関わりを知り、進路実現へ向けた学びと成長の時期**です。勉強・部活動・学校行事に精力的に取り組む自身の成長を実感してください。

1 学年 鴻巣塾キャリア教育行事について

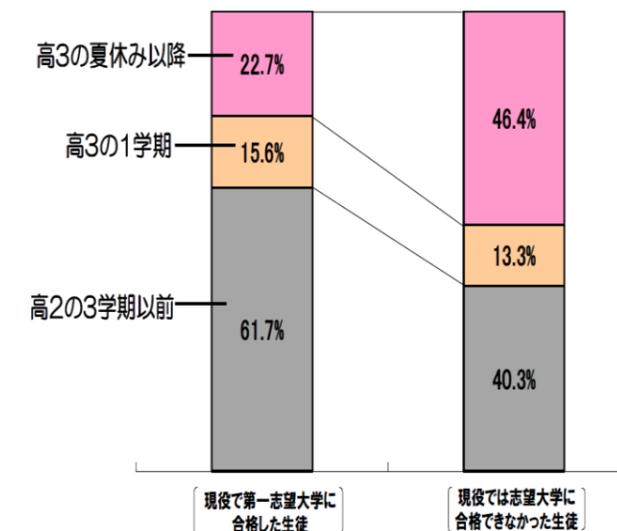
1 学年は 10 月 9 日の HR の時間を利用し、**東京大学 工学部の村上啓太郎さんと上智大学 法学部の海野恵奈さん**から高校時代と大学での学びについてお話を伺いました。各教室での映像による講話のため、じっくりと聞くことができ、これからの**高校生活で大切にしなければならない事や気づきがあった**のではないのでしょうか。振り返りシートの中から 4 名の感想を紹介します、

- ◆ 高校では生徒と呼ばれ、中学生の時より自由であるけれど、実際は先生の指示を聞かなければならない。しかし大学では学生と呼ばれより自由であると感じ、大学生になったら自主的に行動できるように高校生の今から主体性を持つと思った。高校の授業や宿題はコツコツやるのが大切だと改めて分かった。自分自身ではなかなか時間がとれないので、学校の勉強中心に完璧にするといいです。決断することが大事なのだと気付かされた。
- ◆ これからの自分の人生に活かせる情報・アドバイスが沢山あり、とても参考になりました。特に「高校生は自分の興味があるものについて探究していくことを大切にしたい」という村上さんの言葉を聞き、自分が何となくやりたいと思っていることを本やインターネットで知識を蓄えて、やりたいことを明確にしていきたいと考えました。様々なことを知り、自分がどうしていきたいのかの自己理解を深めていきたいと思いました。最近の出来事で、長い間悩み、自己決断したことは「理社選択」です。自分が選んだ教科なので粘り強く勉強していこうと思います。
- ◆ 村上さんの「本は最高の財産である」という言葉に感動した。今まで長い間研究されてきたものが短時間で読むことができるように一冊にまとまっているのだ。これからはいろいろな種類の本を読んでいきたい。また、色々なことにチャレンジして過去を振り返った時にやっておいて良かったと思えるように行動していきたい。
- ◆ お二人の話を聞いてただ、「大学に受かりたい！」をゴールにするのではなく、大学で何を学んで将来にどのように生かしていくのかを考えることが大事なのだと気付きました。高校時代に頑張った経験などが大学生活につながっている事を聞いて、今やっていることを大切にしようと思ったし、やりたいと思ったことは何でもやろうと思いました。

志望校決定への流れ → 1月5日の模試を活用しよう！

高1		高2	
4	将来について考える	4	学びたいことについて考える
5		5	
6		6	
7	文理選択を考える	7	行きたい学部・学科を考える 入試の仕組みや制度を確認する
8		8	
9		9	
10		10	
11	文理決定	11	志望大学を絞り込む
12		12	
1		1	
2		2	受験科目を決める
3		3	

志望校を決定したのはいつ？



- ①模試は自分の弱点を確認し、今後の学習計画に役立つ。
- ②志望大学との距離をつかむためにある。
- ③模試の復習は間隔を置いて3回行うと良い。

大学訪問 国立電気通信大学を訪れて

電気通信大（電通大）は国立の理工系大学で、材料化学、生命化学、光科学、エレクトロニクス、ロボティクス、機械工学、メディア、経営・社会学など幅広い分野が学べます。本校からも、毎年合格者を出しており、76期生は3名、75期生は2名が合格しました。

【電気通信大学のアピールポイント】

①交通の便がよく、キャンパスが一つにまとまっている

JR上野駅から50分ほど（根津からも50分位）で、京王線の調布駅に到着します。そこから徒歩5分くらいで、電通大のキャンパスが見えてきました。意外と近く、交通の便は予想以上によいです。電通大は、キャンパスが分散せず、一カ所に集まっており、緑もたくさんあって、広々とした印象です。さすが理工系の大学だけあって、最新鋭の「実験室」や「情報基盤センター」「ものづくりセンター」などが設備が大変充実していました。学生のための「サークル会館」や学生食堂や売店が集まる学生会館など、学生のための施設もたくさんあって、楽しいキャンパスライフを送れそうです。

②充実したものづくり教育プログラム

ロボット製作や電子回路、ソフトウェア、ヒューマンメディアなどで「楽力教育」を展開し、創造プロジェクトを実施しています。たとえば、「ロボメカ工房」では、1年生からロボットが製作できます。オリジナルのロボットを開発・製作し、学外のコンテストに出場したりもするそうです。

③全国トップクラスの就職力

企業が電通大に高い評価を持っていることと、大学の細やかなサポート体制をバックに、就職率は国公立大の中でもハイレベルになります。

④学年ごとに専門を決めていくカリキュラム

電通大の注目点は、入学時から学部学科を決めるのではなく、1年生では、理工学全般の基礎を幅広く学び、研究の進め方や実験の基礎も身につくことです。2年次では「情報系」「融合系」「理工系」とゆるやかに分かれ、3年次で14の教育プログラムで専門科目に分かれていく、ユニークなカリキュラムを組んでいます。学部学科を、複数で迷っている人も電通大ではじっくり入学後に決められます。

【電通大に合格するには】

電通大は一般受験が中心になります。昨年度の例では、共通テストは英語R75点・英L25点・国語100点・数IA・数IIBC100点・理科（物理・化学・生物・地学から2科目選択）100点、社会（公共倫理・公共政経・日本史探究・世界史探空・地理探究から1科目選択）50点・情報I50点です。2次試験は数学（IⅡⅢABC）・理科・情報（物理基礎・物理・化学基礎・化学・情報から2科目）・英語ですが、前期日程は、共通テストと2次試験の配点が500点：500点、後期日程になると350点・600点になります。どちらにも共通することですが、数学と理科・英語の配点が高いので、私立理系大学と併願しやすい大学です。国語が苦手だから、国公立大は無理と思わず、積極的に受験してください。2次試験の情報は前期のみ選択できます。学校推薦型入試や総合型選抜入試も実施しており、共通テスト・個別学力試験を免除し、総合問題試験・面接試験。出願書類で判定します。

電気通信大学情報理工Ⅲ類 M・K君(76期)

【効果のあった学習方法】

授業をしっかりと受けて定期テストもがんばっていたので、基礎は定着していました。国公立大や難関私大目標の人は、だらだら勉強しないで、集中力と効率に気をつけましょう。模試で大量失点したら、すぐに復習すべきです。わからなかったら先生に聞いてください。

○英語：英語の予習は大事です。文法や単語・熟語は学校でもらったものを繰り返しました。理系の人は英○数学：理系は数学の良し悪しが運命を左右します。夏以降は数学に命をかけましょう。だんだんレベルを上げていくといいと思います。



○物理：きちんと理解すれば簡単です。理解するまでは、キツイけど、つかめばかなり伸びます。数学と一緒に、自分の実力にあった問題集を使って、レベルを上げていくといいでしょう。

【受験について】

受験勉強を始めた頃は、落ちたらどうしようと不安で、集中できませんでした。このままではいけないと思い、受験はマラソンみたいなものなので、成績がすぐに上がらなくても、あせらないで楽しみながら勉強していこうと発想を変えました。受験を甘く見ないことはもちろんですが、適度に休憩を取りながら勉強することで、受験を乗り切ることができ、メンタルも成長したと思いました。

【志望校を決定した理由】

電気通信大は国公立大なので、学費も安く自分の学びたい分野に力を入れている上に、就職実績も良く、自宅からも通える点が志望校を決めた理由です。中央大学理工学部と東京電機大学工学部を併願しました。

共通テストとは？

要：熟読

① 約49万人が出願する国内最大の大学入学試験

共通テストは、毎年1月に全国で一斉に行われるマーク式の共通テストで、大学入試としては、国内最大規模のものです。【今年度は1月18日（土）・19日（日）】

令和6年度共通テストの志願者数は、約49万人です。共通テストは全受験生の8割が志願している計算になり、その重要性がうかがえます。今年度の上野高校でも、3年生中302名（98%）が共通テストを受験する予定です。

② 国公立大はもちろん、私大でも8割以上が利用！

では、共通テストはどのように利用されているのでしょうか？

（1）国公立大学の一次試験として利用

（2）共通テスト受験する私立大学で利用

一部の大学（学部）を除き、国公立大学を目指す受験生は一次試験として共通テストを受ける必要があります。

さらに、「私大志望だから共通テストは関係ない！」と思っていたら大間違い！

共通テストに参加する私立大学・短大はどんどん増加しており、その数は私大全体の9割以上に相当します。つまり、受験生にとって今や共通テストは避けて通れないものとなっているのです。

③ 出題科目→2日間にわたる時間割の中から自分の志望校入試に必要な科目を受験

④ 出題範囲→高校の全履修範囲のうち、高1・高2で学習した内容が全体の4分の3以上

平均点が6割くらいになるような方針で作成されています。思考力が要求される問題が増えています。基本教科書の範囲から出題されます。また知識を組み合わせ、思考力や判断力・読解力が問われる問題が増えています。最近では、探究を意識して先生と生徒が会話したり、生徒が発表したりする問題の形式もあります。授業で学ぶ内容を理解して、きちんと共通テスト形式の問題に慣れるなど対策を立てておけば、十分高得点をねらえます。そのため、難関大学で7～8割以上の高得点が必要になってきます。

⑥共通テストは、共通テストだけの合否決定が主流？！

国公立大学を受験する人は、必ず共通テストを受験します。その後、個別の試験を受験します。文系は6教科8科目中心で理系は6教科7科目中心です。国公立大学は共通テストで70～80%が目標です。共通テストで求められる1・2年の基礎をしっかり固め、苦手分野を無くしていきましょう。

共通テストを利用する私立大の多くは3～4教科で出願できます。そのため、私立大志望の人は、一般入試と同じ科目で出願することが可能です。一部の難関私大では、5教科必須のパターンや理系でも国語が必要な場合がありますが、受験人数が少ないので倍率も低く狙い目です。共通テストの場合受験科目をよく調べて下さい。多くの大学・学部が、共通テストの成績だけで合否を判定する方式をとっています。大学に願書を送り（受験料必要・ただし、一般受験より安い）、共通テストを受験するだけでよいので、受験生にとっては便利な受験方式と言えます。これから、志望大学が発表する共通テスト教科・科目をよく調査する必要があります。